

事業の全ての分野に適用すべき

## ロータリー道徳律

国際ロータリー

1915年7月19日～23日、サンフランシスコにおいて開催された  
ロータリークラブ国際連合会第6回年次大会にて採択。

事業を営むにあたって心得とすべき規範には、我々共有の人間性に対する思いやり、  
という韻律がなければならぬ。

事業上の取引、願望、交渉にあたっては常に社会の一員として、最高の義務感に思いを致す事が  
先決である。

事業上の如何なる立場に置かれても、如何なる責任を負わされても、私の関心事は、  
私が、その責任を果たし義務を遂行する事によって、人類の理想と成果を、自分がそれに取り組む  
前より少しでも引き上げる事が出来たかどうかにかかっている。

かかる観点よりして、ロータリー国際連合が、事業取引の道徳規範として提唱する基本原則は、  
以下に示す通りである。

- [第一] 価値ある職業の意義に目覚めよう。職業は社会に奉仕する絶好の機会として与えられた  
ものだ。
- [第二] 自己革新に努め、能力を高め、奉仕の輪を拡げ、それによって私が信奉するロータリーの  
基本理念、「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」という事を実証しよう。
- [第三] 私は事業の人である。従って成功への野心もある。しかしそれより先に、私が道徳的人間  
たることを自覚しよう。従って最高の正義と道徳に基づかぬ成功は望むところではない。
- [第四] 収入を得る為に商品、労力、知能を提供するが、それにかかわる全当事者が、等しく  
それによって潤う場合にのみ、適法にして且つ道徳的なりと心得よう。
- [第五] 自ら携わる職業の水準を高める為全力を捧げ、仲間の人たちが、私のやり方を手本にする事  
が賢明であり、また利益をもたらし、幸福につながる道だと悟るように仕事を進めよう。
- [第六] 事業を営む場合には、同業者と同等またはそれに優る完全なサービスを提供しよう。  
もしそれに自信が持てなければ、採算上厳しい限度を超えても、それを上回るサービスを心  
掛けよう。
- [第七] 専門職務又は事業に携わる者にとって、最大の資産は友人であり、友情のゆえに得られた  
便益は何れもみな極めて道徳的にして且つ正当なものと理解しよう。
- [第八] 真の友とは、互いに何等求める所のないものである。されば利益の為に友情の絆を濫用する  
ことは、ロータリーの精神に反するのみか、この道徳律を冒瀆するものである。
- [第九] 現実の社会秩序に照らして、明らかに自分以外の人には与えられない様な、ある種の機会に  
不当に乗じて個人的成功を収めることは、適法且つ道徳的とは認められない。  
又物質的成功を収める為に、世人が道徳的に問題ありとして避けるような事に、断じて私は  
手を染めない。

- [第十] 人間社会の他の人々に対して負う義務以上のものを私は同僚ロータリアンに対して負うものではない。何となれば、ロータリーの真髄は競争ではなく協力の中にある。ロータリーの様な組織において偏狭な党派の存在は断じて許されない。またロータリアンは、人権が単にロータリークラブに限られたものとは思わず、広く深く全人類それ自体に存するもの、と断言して憚らないからである。この高い理想の故にこそ、ロータリーは全ての組織に属する全ての人々を啓蒙すべく存在するのである。
- [第十一] 結論的に言えば、この黄金律の普遍性を信じよう—— “すべて人にせられんと思ふ事は人にも亦その如くせよ “
- そして我々は、最善の人間共存社会とは、この地球上の天然資源に対して全ての人々に平等に門が開かれることだ、と主張してやまないのである。

## 要 旨

- 道德律の真意 この道德律は、人格の完成と自我保全の為の国家永続、と言う様なギリシャ的道德観ではなく、ただ愛の精神より発するものである。即ちロータリアンはひたすら自我保全の権利を主張するものではなく、他人を滅ぼすよりは寧ろ他人に滅ぼされん事を選ぶのである。然るが故にこの道德律は愛の精神を基盤にして構築された。
- 道德律の価値 この道德律は、今の世にある保守派進歩派の論争、その何れにも与するものではない。保守か進歩か、ただ単にその様な論争をして何になろう。この道德律が求める所のものは一価値—それがもたらす有用性という事なのだ。保守か進歩か、そんな事とは関わりなく、道德律の有用という事がそれを起草した人々の意図なのである。この有用性によって道德律は存立し、それある限りその存在意義は失われない。